

◆左京四条二坊十六坪の調査 —第269-6次

店舗建設の事前調査。藤原仲麻呂の邸宅田村第と推定される左京四条二坊十六坪の中央西寄りにあたる。この坪は、過去、奈良市教委と奈文研が3次の調査を行なっている。今回は11m×3mの東西トレンチを設定したが、現代の盛り土が厚いために遺構面が深く、実質の調査面積は15m²。調査期間は8月16日～20日。

検出遺構 奈良時代の柱穴7基、土坑1基を検出した。このうち、柱穴は建物のもので仮定して記述を進める。

SB7075 東西に並ぶ4基の柱穴列。東西棟の側柱か。柱穴は1辺約70cmの方形で、柱間は9尺。西でやや南に振れる。柱穴底に川原石を置く。礎盤と考えられる。SK7077より新しい。

SB7079 調査区東端で柱穴を1基検出した。南北棟の

西側柱か、東西棟の西妻部の柱と思われる。柱穴の深さは、検出面から約80cmある。

SB7080 SB7079より新しい柱穴で、SB7079と同様、建物の規模等は不明。柱穴は1辺約1メートルと大ぶり、底に木の板を礎盤として敷く。

SK7077 調査区西半で検出した土坑。東西幅1.9m。北端、南端は調査区外に延び、溝の可能性もある。埋土は2層に分かれ、主に上層から平城宮土器Ⅲの土器が出土。

小結 調査面積が狭く、遺構の全容解明には至らなかったが、3時期にわたる建物を検出、この地の利用頻度が比較的高いことをうかがえた。その中で、土坑SK7077との関係から、SB7075またはSB7080を田村第の時期に比定することも可能である。
(玉田芳英/考古第2)

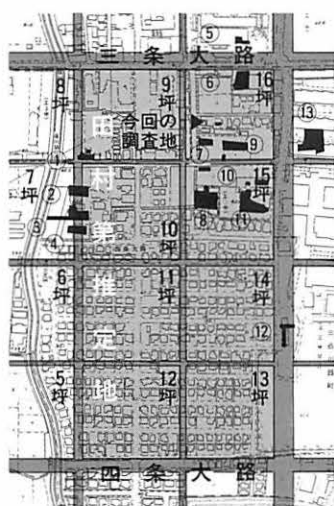


図41 田村第推定地近辺の調査 1:10000

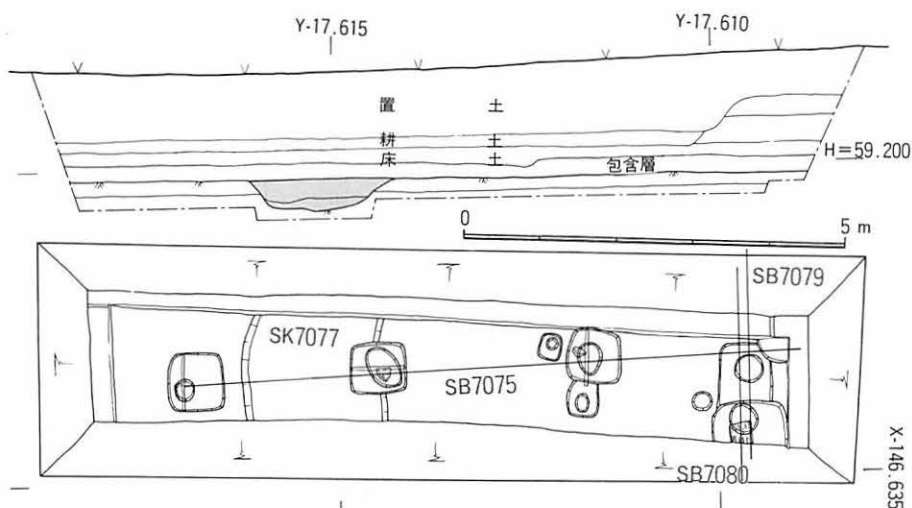


図42 発掘遺構・土層図 1:100

(文献のNoと図41のNoは一致する)

- 1: 奈良市第133次調査『市埋蔵文化財調査概要報告書』昭和62年度
- 2: 奈良市1984年調査『市埋蔵文化財調査報告書』昭和59年度
- 3: 奈良市1984年調査『市埋蔵文化財調査報告書』昭和58年度
- 4: 奈良市1983年調査『市埋蔵文化財調査報告書』昭和58年度
- 5: 榎考研1975年調査『平城京左京三条二坊十三坪』1975年
- 6: 奈良市第136次調査『市埋蔵文化財調査概要報告書』昭和62年度
- 7: 奈良市1983年調査『市埋蔵文化財調査報告書』昭和58年度

- 8: 奈文研第145次調査『平城京左京四条二坊十五坪』1985年
- 9: 奈文研第223—20次調査『1991平城概報』1992年
- 10: 奈文研第191—3次調査『昭和63平城概報』1989年
- 11: 奈文研第156—8次調査『平城京左京四条二坊十五坪』1985年
- 12: 奈文研第123—6次調査 1980年
- 13: 奈文研第105次調査『昭和52平城概報』1978年
- 14: 奈文研第242—14次調査『1993平城概報』1994年度